

令和4年度 看護師職能委員会 I 書面交流会結果 (概要)

令和4年度看護師職能委員会 I 交流会は新型コロナウイルス感染症の感染拡大を考慮し、書面開催となりました。テーマを『地域の課題やニーズに応じた看護提供の現状と病院看護師の人材育成や活用における課題』とし、紙上での設問にご回答いただき、各支部より14件の回答が得られました。

設問1) 「コロナ禍の脅威の中、各病院の枠を越え連携する仕組みがあるか」

盛岡医療圏域以外では構築されているとの回答でした。

他病院の認定看護師から助言を受けたり、圏域独自のネットワークがあり、合同カンファレンスを実施しているとの回答が得られました。盛岡医療圏域では、医師間では、情報をリアルタイムに発信されおり、看護部でも情報交換の仕組みを持ち、各病院での具体的な活動や対応策などの情報交換する場があれば良いとの回答がありました。

設問2) 「地域につなぐ思考の元、患者さんを地域で生活する人として現場の看護師は理解し活動されているか」

全ての医療圏域においても、他職種と情報共有し協力し合い、患者・家族の意向を聴取しながら支援しているとの回答でした。

設問3) 「地域の課題やニーズはどのように把握し、現場で展開されているか」

高齢化による老老介護、独居などの困難事例、受け入れ施設の少なさなどが問題としてあげられ、包括センター、ケアマネジャーと連携し、退院支援に向けたケア会議などで情報を共有し対応しているとの回答でした。

設問4) 「実際に看護提供する看護師に求められる役割と能力は何で、看護師の現場教育はどのように進められているか」

病院で働く看護師が、退院後の患者を全人的に捉え退院後の生活を考えられるアセスメント、コミュニケーション能力、職種による考えや見解に配慮した想像力が必要であり、eラーニングなどを含め、ラダーによる教育と研修の実施、新人に対してもOJTなどで教育を行っている。また、地域に戻った時の支援体制がイメージでき、実践に結び付くよう訪問看護ステーションや介護老人保健施設との見学実習を進め看護の質が向上するよう取り組まれているとの回答でした。

設問5) 「設問2)～4)これらの現状を踏まえ問題解決への取り組みについてどのように展開できると考えるか」

経験上のスキルにたよる部分が多い為、事例検討などの勉強会の開催、立場や職種による認識の違いを理解するための意見交換する場を持つことなどが必要との回答でした。

コロナ禍という環境が、高齢化などでの困難な事例、他病院・他職種との連携の難しさに影響を与えている部分も少なからず見受けられます。

地域包括システムの推進において、急性期、慢性期など各病床の役割を担ってくためにも情報交換の場、ネットワークなどのシステム強化は必要です。そして、現状や困難事例について情報共有する中で各病床、職種の理解が深まり、看護師の役割と能力開発に繋がるのではないかと考えます。

設問「看護協会の新規入会者を増やすためのアイデアがありましたらお聞かせください」

自院での声かけが必要との回答が多く、新人へは入職時からの説明会、未加入なスタッフへは育児休暇明けなどライブイベントの節目に声をかけるなどしてはどうか。

入会での利点、例えば研修費の助成があることなどを説明することや、研修以外でも、食事や温泉などの割引チケットなど会員限定の特典などがあると良いのではないか。

各教育施設を通し、学生の頃から看護協会の活動内容を伝え興味を持ってもらうことも必要との回答をいただきました。

設問「あなたが支部職能委員の活動を行うにあたって、あると助かる支援や日頃感じていることなどがございましたら、ご自由にお書き下さい」

准看護師の役割についての意見交換の場があれば良い。会員・非会員、看護師に限らず多職種とも交流ができる研修会を企画することで視野が広がるのではないか。

広大な県土の岩手県においては、e ラーニングの推進を図るなどして、移動時間や交通費などの削減につなげ、誰でも教育を受けられる体制や環境を整えることが必要ではないかとの回答をいただきました。

COVID-19 の状況をふまえ、急遽、4 職能合同交流会と同日開催としておりました看護師職能委員会 I の交流を書面開催とさせて頂きました。それぞれの担当圏域と、他圏域と比較するなど、看護師職能委員会 I の活動につなげるためのヒントをいただけたと、感謝申し上げます。今後、支部活動や県全体の活動などに活かしてまいりましょう。

看護師職能委員会 I

委員長 千葉真理子
佐々木 恵
中村 由紀
高橋 貴子
長澤 昌子
菅原由美子